

16. 芸術文化学研究科

(1) 芸術文化学研究科の教育目的と特徴	16-2
(2) 「教育の水準」の分析	16-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	16-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	16-8
【参考】データ分析集 指標一覧	16-10

富山大学芸術文化学研究科

(1) 芸術文化学研究科の教育目的と特徴

1. 芸術文化学研究科の概要

富山大学大学院芸術文化学研究科は、2011年（平成23年）4月に修士課程1研究科1専攻の入学定員8名で新設された。学部が掲げた「芸術文化の社会への展開」をより高度にすることで、専門的な知識と幅広い教養を兼ね備えた人間性豊かな人材の育成を目指し現在に至っている。

2. 芸術文化学研究科の教育目的

本研究科の教育目的は、伝統文化を起点としたものづくりの体系を深め、国際的視座に立ち、普遍的・歴史的・地域的な固有の視点と専門知識の深化及び地域の諸問題に対する実践的な教育を行うことである。その教育の先に求める人材像として、高度な専門職業人としての「先導的役割を担う人材」を育成する。具体的には、

1. 新時代の芸術文化を担うアーティスト
2. クリエイティブな産業のコーディネーター
3. 新たな地域文化のリーダー

という3つの人材像を掲げている。

3. 芸術文化学研究科の特徴

芸術文化学研究科の特徴は、次のとおりである。

(1) 共通科目の重視

本研究科は、学部が続く融合教育を行うため、芸術文化学専攻の1専攻としている。芸術文化論を中心とした共通科目を配置し、芸術の普遍的価値などの基本的視野を養う教育課程を取っている。

(2) 地域と連携した実践型教育

地域の豊かな環境の中（ローカル）から自分らしさをつくり、グローバルな視座で未来を見つめることができる「グローカル」な人材を育成するため、地域と連携した実践型教育を推進している。

(3) 豊富な受賞歴

様々な美術展、アートフェスタ、デザインコンクール、コンペティション等に積極的に応募させ、2016年から2019年までの間に9件の院生による受賞実績がある。

(4) 修了生の活躍

研究科開設後まだ10年であるが、既に作家・芸術家として何人かの修了生が活躍を始めている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目 1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された学位授与方針（別添資料 3716-i1-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された教育課程方針（別添資料 3716-i1-1（再掲）、3716-i1-2（再掲））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・体系性が確認できる資料（別添資料 3716-i3-1～3）
- ・自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 3716-i3-4～5）
- ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 3716-i3-6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- カリキュラムマップを作成すると共に、ナンバリングにより授業の体系化を図った。また、専門家としてのキャリア形成に資するように4つの履修モデルを学生に提示し、学生が自主的に幅広い知識の取得に臨める体制を構築した。[3.1]
- 修了制作において課している副論文の質を担保するため、履修の手引きに執筆要領を提示した。[3.1]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 3716-i4-1）
- ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 3716-i4-2～3）

富山大学芸術文化学研究科 教育活動の状況

- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3716-i4-4）
- ・インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 3716-i4-5）
- ・指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生の学会や各種展示会、コンペティションへの参加を促すため独自の費用補助制度を設け、数多くの外部からの批評を受ける機会を提供した。
また、芸術文化に関する深い知識と理解を醸成するため、バス貸し切りによる研修会を毎年実施し、県内における美術館や博物館における学修機会を準備している。参加数は平成 28 年度 11 名、平成 29 年度 11 名、平成 30 年度は 10 名であった（別添資料 3716-i4-6～7）。[4.1]
- 平成 31 年度から、教員による指導の統一を図るため、研究科運営委員会においてシラバスのチェック体制を構築し、すべての授業シラバスを統一の基準によりチェックする体制を整えた（別添資料 3716-i4-8～9）。[4.1]

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 3716-i5-1）
- ・学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 3716-i5-2）
- ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 3716-i5-3）
- ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 3716-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 29 年度から、学生の学習意欲向上のため、優秀な修士研究・制作を行った学生に GEIBUN PRIZE を設け表彰している。平成 30 年度からは、富山県美術館において、それらの作品を中心に展示する GEIBUN SELECTION 展を開催し、学生たちのモチベーション向上と履修意欲を促進させている。
また、多くの一般来場者があることから、外部からの評価に接する機会としている（別添資料 3716-i5-5）。[5.1]
- 大学院生の約 40%をティーチングアシスタント（TA）として採用しており、学部学生に対する指導補助を通じて自らの能力向上を図る機会を提供している。[5.3]
- 修了時アンケートだけでは汲み取れない学生の意見を反映させるために、修士 2 年生について、研究科長と個別面談の機会を設け、学生生活や教員に対する要望等を聞き出し、その内容を教員間で情報共有する仕組みを作っている。[5.2]

- 建築士資格受験を希望する学生には希望に応じた建築設計事務所と調整のうえで、インターンシップとして外部における実務実習機会を修了要件外科目としてカリキュラムに取り込み、実務経験相当として（公財）建築技術教育普及センターより認定されている。[5.3]

- 多様な学生受け入れのため、令和元年度FD委員会において「LGBTQ」に関する研修会及び、「学生とのカウンセリング基礎技術」に関する講習会を行い、教員の学生指導に対する意識の向上を図った。[5.4]

＜必須記載項目6 成績評価＞

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 3716-i6-1～2）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 3716-i6-3）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3716-i6-4～5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学習成果を発表する機会として院生展をギャラリーにおいて実施し、外部の専門家等により評価を受ける機会を提供している（別添資料 3716-i6-6）。[6.1]

＜必須記載項目7 卒業（修了）判定＞

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 3716-i7-1、3716-i6-1（再掲））
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 3716-i7-1（再掲）、3716-i7-2）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 3716-i7-3～5）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 3716-i7-6）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 3716-i7-3（再掲））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学位論文・制作に関し、研究科全体で年間2度の発表会を開催し、あらゆる分野の教員より批評を受ける機会を持っている。最終の学位論文についても、一人の主査と二人の副査（指導教員以外を主査としている）の仕組みを取り、厳格に審査を行っている。[7.2]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・学生受入方針が確認できる資料（別添資料 3716-i1-1（再掲）、3716-i1-2（再掲））
- ・入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・入学定員充足率（別添資料 3716-i8-1）
- ・指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 29 年度より留学生の受け入れを積極的に行い、平成 31 年度までの合計で 7 名を受け入れている。また、大学院留学生として受け入れる前に研究生として一旦受け入れる仕組みも活用し、日本語の習熟や生活などに慣れてから大学院入学を進める仕組みを構築している。また、研究生や留学生の研究内容や保護者の経済力などを事前に確認するためのチェックリストを作り、良好な留学生の受け入れを促進している（別添資料 3716-i8-2）。[8.1]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3716-i4-4（再掲））
- ・指標番号 3、5（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 第 2 期中期目標期間から引き続き、2 年に一度、ラハティ応用科学技術大学との交流展をお互いの大学で実施している。また、平成 28 年度からは新たに、タイのパタナシン芸術大学との間で、大学院生が出展する交流展を交互に開催しており、これらの取組が国際的な教育推進に寄与した結果、第 2 期中期目標期間の受入留学生 2 名から、第 3 期中期目標期間（令和元年度末まで）は 7 名に増加している（別添資料 3715-iA-1）。[A.1][A.2]

<選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 令和元年度にFD活動として、授業評価アンケートの活用方法に関する議論と、学生から積極的な意見をもらうための方法について議論を行った。

さらには、多様な学生受け入れのため、令和元年度FD委員会において「LGBTQ」に関する研修会及び、「学生とのカウンセリング基礎技術」に関する講習会を行い、教員の学生指導に対する意識の向上を図った（別添資料 3716-iC-1）。[C.1]

<選択記載項目D 学際的教育の推進>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料なし）
- ・指標番号2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 3716-ii1-1）
- ・「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 3716-ii1-1（再掲））
- ・指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生向けコンペティション等での受賞数も増加しており、第2期中期目標期間中は全国レベル受賞が1件/5年であったところが2件/4年、地方レベル受賞が3件/5年が7件/4年と順調に増加している。特に建築コースでは、コンペにチャレンジするための取り組みも自主ゼミのコース教員を中心として継続的に実施しており、その成果は今後書籍として出版する予定である（別添資料 3716-ii1-2）。[1.0]
- 学生の学会や各種展示会、コンペティションへの参加を促すため独自の費用補助制度を設け、数多くの外部からの批評を受ける機会を提供した（別添資料 3716-i4-6(再掲)）。[1.0]

<必須記載項目 2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 作家として活動する以外の学生の就職率は100%であり、非常に高い安定的な結果を残している（別添資料 3716-ii2-1）。[2.1]

<選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3716-iiA-1～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年、修了時アンケートを実施しており、令和元年度には教員の教育への取り組みについて4段階中、上位2位の「良い」86%、「どちらかといえば良い」14%という高評価、専門科目の構成、課題研究の指導方法、学生に対する成績評価について、4段階中、上位2位の「良い」71%、「どちらかといえば良い」29%という肯定的評価を得た。また、専門分野の問題解決能力が培われたかという質問についても、4段階中上位2位の「そう思う」71%、「どちらかといえばそう思う」29%と

なり、いずれの項目も合計 100%となり非常に高い評価を得ている。[A.1]

<選択記載項目 B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3716-iiB-1）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 24 年度～平成 27 年度修了生 11 名への教育に関するアンケートを平成 31 年度に実施した。研究科で向上した点については、11 名中 10 名が専門性をあげ、思考力、創造力・独創性についても過半数が向上した項目として挙げている。
また、身についた能力が終了後の職業について役に立っているかという質問に対しても、専門分野の知識・技術について 11 名中 7 名が役に立っていると回答し、研究科においての教育が研究科修了後も修了生の活動に良い影響を与えていると思われる。[B.1]

<選択記載項目 C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3716-iiC-1）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 就職先のアンケートは、就職後 2～3 年が経過した段階で企業へのアンケートのみならず、直接訪問して修了生に関するヒアリング調査を実施した。直近では平成 31 年度に 3 名の訪問調査を行っている。
修了生は人数が少なく専門分野が異なるため、集計には至らないが個別の結果を教員において、フィードバックしている。[C.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。